

第8回 逗子海水浴場の運営に関する検討会 概要

日時：令和4年10月17日（月）

14時30分～17時00分

場所：逗子市役所5階 第1・2会議室

出席者

[メンバー] 田中 美乃里、歌代 光雄、菊井 健一、熊岡 寛展、若菜 克己、
福井 八洲雄（山口 正志代理）、須田 武、菊池 俊一、安重 宣子、
飯野 幸、和田 修芳、勝田 康司（菊池 千春代理）、岡田 和夫、
深澤 忠房、岩佐 正朗

（順不同、敬称略）

[オブザーバー] 横須賀三浦地域県政総合センター企画調整課、逗子警察署地域課、
鎌倉保健福祉事務所環境衛生課、横須賀土木事務所許認可指導課

[事務局] 逗子市市民協働部経済観光課

課長 黒羽 秀昌、係長 楠元 仁、主事 宮上 敦久、主事補 井熊 拓海

欠席者

[メンバー] 黒田 尚弘、中尾 裕一、柳 勇次、徳本 恒徳、松田 政治

[オブザーバー] 公益財団法人かながわ海岸美化財団

会議公開の可否

可

傍聴者

2名

会議次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 令和4年度逗子海水浴場の運営報告
 - (2) 検討会メンバーの所感
3. その他

配布資料

資料1. 令和4年度逗子海水浴場報告書

1 開会

- ・事務局より、検討会は傍聴できることと、マスコミの頭撮りについて説明を行った。
- ・事務局より、資料確認を行った。
- ・本日の会議の趣旨説明を行った。
 - 令和4年度逗子海水浴場の運営について、逗子市作成の報告書に基づき今夏の状況を報告させていただき、各メンバーから所感等をご発言いただきたい。

2 議題

(1) 令和4年度逗子海水浴場の運営報告

- ・事務局から資料1「令和4年度逗子海水浴場報告書」に基づいて、今年度の海水浴場運営について報告を行った。
- ・報告書の内容について質疑があった。
 - 警察・消防が海岸に出動した回数が報告書に載っていない。令和元年との比較がどうであったかの表記をしてほしい。
⇒消防の出動数については説明を省略したが、4ページに記載している。警察の出動数については公表されていないため、記載していない。
 - 今年は治安が悪かった。報告書の書き方としては良かったという内容になっているが、入れ墨・柄の悪い人も多かったし、毎週末警察がきていて、救急も多かった。自分たちで雇っている警備から聞き取ったもので、自分たちに都合の良い報告書にしか見えない。誰のせいでもないが事実として柄が悪い人が増えているということは書くべき。
 - パトカーは毎日新宿会館横に来ていたので集計しにくいのではないかと。警察はよくやってくれていた。
 - サイレンを鳴らした回数の集計を言っている。令和元年と比べて10倍くらいに増えているように感じている。
 - 今年は良かったと思っている。
 - 監視カメラは試行的な取り組みということだが、効果はあったのではないかと。設置前後で明確に良くなっているなら、12ページだけではなく最初の方にも記載した方が良いと思う。そうすることで予算確保などもスムーズにいくのではないかと。カメラの台数については別の視点で検証してもらえればと思う。
⇒今年は9台設置させていただいている。具体的な数値等は示しにくいですが防犯効果はあったものと考えている。
 - 言葉の整理について確認したい。5ページでいう「違反者」と9ページの「複数回来場する外国人グループ」、14ページの「特定の外国人グループ」は全て16ページの写真のグループを指しているのか。一方では条例等ルールが「浸透している」と記載している、ある一方では「浸透していない」というような記載になっているのは矛盾しているのではないかと。
⇒5ページの「違反者」は広い意味で記載しており、9ページの「複数回来場する外国人グループ」は該当する一部のグループを指している。14ページの「特定の外国人グループ」というのは言葉のとおり。全体的には、7月24日の合同パトロールの時点ではコミュニケーションが取り切れていない部分があったが、当日の退場勧告以降は警備員と

外国人通訳アドバイザーからの呼びかけを繰り返すことでルールの理解が進み、少しずつ注意に従うようになった。

-常に迷惑をかけている特定の外国人グループに対処できない限りは、良くなったと言えないのではないかと。注意されても警備員がいなくなったら音楽・飲酒をしている。彼らがいるせいで他の人もいいのではないかと、思ってルールを破っている。

⇒ご意見として受け止めさせていただく。

-報告書にこうした意見を反映するつもりはないのか。

⇒皆さんの意見を踏まえて検討する。

-マナーアップ警備員の入れ墨・タトゥーの注意件数について、令和元年と比べて100分の1になっているのはあり得ない。

⇒海水浴場に入れ墨・タトゥーを入れた人が多くいることは認識している。ただ、それらの人は飲酒や音楽と合わせて注意するケースがほとんどで、限られた人員で特に飲酒に力を入れて注意・対応しているため、そちらのカウントに入っている。

-入れ墨の人がものすごく増えているのに、飲酒だけ注意して入れ墨の注意はしていない。逗子海水浴場の客層が悪くなっている。2ページの葉山の来場者数を見ると、令和3年から40%ほどしか増えていないが令和元年比は100%となっている。これは地元の人が多く行っているということである。葉山の海岸は良い例で、無料の音楽イベントもやっている。逗子は有料化などの対策で根本的な変化をしないといけないのではないかと。感覚として何割くらいの方が入れ墨をしていると思うか。

⇒この場において感覚で申し上げるのは難しい。また、おっしゃるとおり、葉山は増えている海水浴場は、町民の方がほとんどだと聞いている。鎌倉もコロナ禍にあっては、市民が多い海水浴場は増加し、市外の方が多く海水浴場は減少しているようである。逗子に市外の方が多く来るのは海岸までのアクセスの良さもあると思う。市外から多くの方が来ること自体は良い傾向であると思うが、マナーと表裏一体なので対策を検討していきたい。

-収益をあげるために市外の人からはお金を取って、市民は無料にすべき。未成年の飲酒事案もあることが問題である。

・各メンバーから今年の夏の所感について、発言があった。

-個人的には今年の海は良かったと思っている。外国人通訳アドバイザーや警備員に加え、様々な新たな取り組みが増え、明らかに良くなっていると思っている。ただ、マナーの悪い来場者がこの良い面を打ち消してしまっている印象。二つ目は、米軍関係者が起こしたと見られるこの事件の経過報告については、市から市民へ正式に情報共有してもらいたい。市民が何となくの情報で話しているような状況である。三つ目は、報告書の説明の中で、コロナで来場者が減っているという説明があったが、海の家の人からは単純に海に来る人が少なくなっていると聞いた。このような状況下で組合の経営は成り立つのかを聞いてみたい。

-赤字の海の家も結構あったと思う。平日は皆さんが思っているよりお客さんが来なかった。土日もそこまで多くなかった。すごく良いわけではないが、すごく悪いわけでもない。コロナが原因になっていると思う。

-マナーアップ警備の取り組み自体は良かった。それがなければよりコントロールできなかったと思う。去年一昨年の方が静かで良かったと個人的には思っている。小規模な海の

家が沢山あるのが逗子の特徴。いくつかの店をまとめて規模が大きくなれば経営も楽になると思う。もっと規模を大きくして、市民にとってより良い会場になってほしい。ワッショイずしかいがんのイベントについて、市民が参加しているのは良いが、一人当たりのコスト換算を出してほしい。海水浴の季節ではなく、人が来ない秋春にイベントをやってほしいと考えている。

-今年の夏は米軍の暴行事件が大きなデメリットだったと思う。海岸組合の方が大ケガをして、逃げられたというのは最大の課題。今までも船が横須賀に入ってきた時は事件が起きていた。検討会で意見を出し合って改善すべき。それ以外にも海岸での小競り合いなどもいくつか見られたのも、今後の課題としてほしい。これまでも言ってきたが、海の家について、17時以降の商店街営業を本格的に検討してほしい。17時までは海水浴を楽しむ場として、お酒を飲む場所ではないということを前面に出し、17時以降は街中の店舗同様、服を着て客に楽しんでもらうことをルールにしてほしい。海の家＝商店街というイメージ作りに努めてほしい。あとは、どこの海の家がより良い営業をしているのかコンテストのようなものを行ってほしい。

-ワッショイのイベントについては、午前中がメインで海岸によく行ったが、その時間帯はほとんどが子連れや若者グループで海水浴場全体の客層も良い。天候にも恵まれて全企画実施できて、全体的に良かった。イベントについては年間を通して実施しており、秋春にもイベントを企画している。また、毎週のようにマリンスポーツの大会などのイベントがあり、一年を通してイベントが多く、逗子海岸は全国有数だと思う。市外からくる質の悪い人をどうにかしないといけないが、全体としては平和なファミリービーチになっていると思っている。

-3年ぶりに66日間開設することができたことは大きいと思う。シンボルロードの暴行事件については、ナーバスなものでもあるので詳細はなかなか報告できない。シンボルロードに警備員を配置し、警察にもパトカーを配備いただき、強化できていたのではないかとと思う。防犯カメラも抑止力となった。事件後は小競り合いなどはあったが、大きな事件等がなかったのは様々な団体が良くしていこうという思いがありご協力があったからと感じている。子ども向けイベントについて、ファミリービーチとなるためのきっかけづくりとなっている。抽選倍率も高く、市内の子どもたちがウォーターパークのビーチクリーンに800人近く来てくれたという良い面も見られて良かったなと思っている。夕方以降のビーチは悪い部分もあったが、全体としては日中は良くなっているのではないかと。

-海の家としては、全面的に今年は落ち着いて対応できたのではないかと感じている。組合内の統制が取れてきており、昨年の営業停止も辞さないという姿勢が伝わっていると思う。シンボルロードでの暴行事件後は警察の巡回も増え、海水浴客も落ち着いたと思う。

-全体的には久しぶりに開設できたし、逗子海水浴場が復活してよかったという良い声も聞けて良かった。子どもたちも多かった。しかし、外国人が増え、それに伴う事件が増えたというのも事実。ベトナム人による盗撮事件や、暴行事件、米軍の女性の泥酔や外国人同士の小競り合いなどの外国人の起こす事件が増えていると感じているので何とかしてほしい。警察の対応を強化してほしい。暴行事件を逮捕できないのはおかしい。また、南米系の、主にペルー人のマナー違反がエスカレートしているため、身分証の提示等すべき。海上のマナー違反はほぼ無くなった。だが、ボートで来た人が海の家で飲酒しているというケースもある。海保がいなくなるまで運転手が帰らないということもあった。海の家は

- お酒の提供について徹底してほしい。あとはヴィヴィアナ（海の家）の音量がいつも大きい。基準値内かもしれないが他が静かな時にまで大きな音を流すのはやめてほしい。また、シーマジック（海の家）の中で楽器の演奏もあったと聞いている。あとは漂着したヨットの件について、前から県に対応をお願いしていたのに漂着するまで動いていただけなかったのはどうなのか。もう一艇停泊しているヨットに対応も早急にお願いしたい。
- 海の家の音や閉店チェックについて、新宿自治会でもチェックしている。今年は7・8月に計6回、134号線の道路上からチェックした。BGMによる問題はほぼ管理されていたと思う。しかし、米兵の暴行事件について、大ケガをした女性の他にも4～5人被害にあっている。また、シンボルロードでの泥酔者も見ている。土日は特に警察や救急車をよく見た。東浜と西浜の違いがあると思っており、東と西でトラブルの件数やイメージ等、どういった違いがあるのか検証することを提案したい。そして、来てほしくないような海水浴客が多かった。駐輪場のラミネートがはがされていたり、選挙ポスターも捨てられていたり、市の立て看板も壊されたりしていた。グランツオーベル（近隣マンション）の中に落書きもあった。今まではこういった悪いことはなかったと感じている。
- 直接海で関係していることはないが、18時からのパトロールに同行した際に浜で飲み食いしている人が多かったと感じた。逗子に住んで70年になるが、コンビニなどで買った酒をバックに入れて隠す人もいて、皆さんのイメージと同じ印象を抱いている。市民として、今後海岸をいかに良くしていくかを考えていかないといけなと感じた。
- 子どもが嫌な思いをしたというような報告はなかった。市で色々な企画をしてくれて良かったとまわりの人は言っている。個人的には、暑くてあまり外には出なかったが、良かったのではないかと感じている。ロールタオルや固形石鹸は時代にそぐわないため、来年はやめていいのでは。
- ごみの対応がありがたかった。シンボルロードの夜の警備は安心できた。サプライズ花火には賛否あったが、昔を思い出して嬉しかった。海の家の二階部分についてはなくしてほしい。せめて、よしずなどで目隠し等の対策をしてほしい。外国人が怖いとの声が多数あった。
- 海上に関しては、ライフセーバー等の協力のおかげで例年と比べると水上オートバイのマナーが良く、静かで良かった。しかし、陸上は外国人の悪いイメージが多く、状況はよくなかった。タトゥーに関しては、時代的に抑えるのは難しいのではないかなとも思う。今後認めていくのか、取り締まりできないのなら別の方法を検討するということも含め考えていくべき。お酒に関しては飲む時間を決めたほうが良いのではないか。結局事件にはお酒が絡む。ボトルに入れ替えると分からないため、徹底したルールを運用していくことも考えていくべきではないか。海とは何をするとところなのかを考え直すべきである。昔は海の家に射的場などもあって、子どもが楽しめた。今は大人がお酒を飲む場所になっており、海水浴場に子どもたちを連れていきたいと思えない。子どもが遊ぶところが少ない。昼間は子どもが安心して遊べる海に変えていく必要がある。
- ブルーフラッグについて、見事に取得出来てシンポジウムもできてよかったと思うが、それらの効果や結果などの検証はするべきではないか。無関心の市民にも知ってもらうための取り組みを行い、フィードバックと市民からの意見をもらうなどをしてほしい。また、来場客数に対する市民の割合が報告書の数値から見えてこない。殺人事件が起きたことをきっかけに作った日本一厳しい条例が徐々に緩和され、ファミリービーチに向かって

いくような流れになっている。これを壊さないためにも、極論だが、外国人排除や市民へのインセンティブなどの対処も含めて考えていくべきではないのか。やはり、私も孫の子どもたちには夕方以降に海に行くことをやめさせた。一方、朝早い時間帯の海はすばらしかった。外国人を入れないという前提を立てたうえで今後の海岸の在り方、運営を考えてもいいのではないかと。組合内部の統制はうまくいっていたと感じている。ルールが従業員みなさんにも少しずつ浸透しているように感じたので、来年度につながっていくのではないかと。

-外国人が心配だった。今年も相変わらずだった。全体としてはよかったと思う。入れ墨、酔っ払いもひどく、最初の一週間はどうかと思ったが、警察も多く来るようになって、期間中ずっと見て歩いてくれていた。遊泳者の中では事故などなにもなかった。ファミリービーチを目指してライフジャケットを130着用意したところ、お盆の間に二日間全て貸し出すほど好評だった。サイズによっては不足もあったが、始めて10年で子連れやファミリーに定着した。三浦海岸は今年は海の家が立たず、ライフセーバーが集まらないような状況だが、おかげさまで逗子は新入生が20人以上も入り、人気のビーチとなっている。今は130人が所属しており、実働60人くらいが66日間出てきてくれる。今後も安全のために務めていく。

-マナーアップについては、市職員や警備員が手馴れてきていて、目を盗む違反者へ毅然とした態度で対応し、時間差で注意したり、注意後すぐに戻ってチェックしたりするなど、工夫していたとは思いますが、解決できていない点もあるので今後も頑張っていただきたい。あとは、利用者同士の小競り合いが目立っていた。地元の皆がルールを守って大切にしているのに利用者が好き勝手に調子に乗るなど言いたい。海で安心して遊べること自体を有り難いことだと再認識してもらい、そういった事案をなくしていきたい。タバコのポイ捨てについては増えるようなら喫煙所は設けてもよいのではないかと。また、ごみゼロナビゲーションは良かった。ボランティアからモチベーションや動機、意見も聞いてみたい。特定の人を排除するようなことはしたくない。

3 その他

- ・事務局より、今後のスケジュール等について説明を行った。
 - 来年1月を目途に、検討会としての報告書をまとめる。11月、12月に会議を開いて協議していきたい。

以上